

令和4年10月実施

第14回

地方公会計[®]検定

③ 級 問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までにすませてください。

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてかばん等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
・電卓（基準に適合したものに限り） ・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォンや携帯電話等通信機器を使用することは認めません。（時計代わり又は電卓としての使用も不可）電源を切り、かばん等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正行為とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正行為と認められた場合には、直ちに退出を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**1時間30分（90分間）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問を掲載**しており、**1頁から17頁まで印刷**しています。
試験監督員の指示に従い、各頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退出可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退出可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 地方公会計研究センター

地方公会計[®]検定[®] は、一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会の登録商標です

問題 1 次のア～エの記述のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい。

なお、いずれの仕訳も企業会計上のものである。

ア. 売買目的として保有していた有価証券(1株あたり6,500円で購入している)を、1株あたり6,000円で20株売却し、代金は現金で受け取った。

(借)	現	金	120,000	(貸)	売買目的有価証券	130,000
		有価証券売却損	10,000			

イ. 従業員の出張に伴い、旅費として事前に50,000円を現金にて仮払いした。

(借)	仮	払	金	50,000	(貸)	現	金	50,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

ウ. 給料の支払いに際し、預かっていた社会保険料150,000円と企業負担額150,000円を合わせて現金で納付した。

(借)	現	金	300,000	(貸)	社会保険料預り金	150,000
					法定福利費	150,000

エ. 決算にあたり、借入金利息の見越計上を行った(借入金元本:3,000,000円、年利率:1.5%、利息3か月相当額見越計上)。

(借)	未	払	利	息	11,250	(貸)	支	払	利	息	11,250
-----	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------

【選択肢】

1. アイ 2. イウ 3. アエ 4. イエ 5. ウエ

問題 2 企業会計に関する次のア～エの記述のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 簿記上、取引が発生すると取引を借方項目と貸方項目に区分けし、発生順に記録する。この記録を仕訳といい、仕訳帳という帳簿に記録される。
- イ. 仕訳は、取引をどの勘定の借方とどの勘定の貸方に記入すべきであるかを定めることであり、一定の記入法則にしたがって行われる。仕訳は必ず2つ以上の科目に記入され、借方と貸方に対立して同額が記入される。したがって、例えば資産が増加する取引と資産が減少する取引が同時に記入されることはない。
- ウ. 仕訳帳に記入された取引は順次、合計試算表という帳簿に各勘定口座ごとに転記される。借方に仕訳された勘定科目はその勘定口座の借方に記入し、貸方に仕訳された勘定科目はその勘定口座の貸方に記入する。
- エ. 残高試算表は、各勘定口座の借方残高または貸方残高を集計し、それまでの記録を検証するために作成する表をいう。残高試算表の借方合計金額と貸方合計金額は、転記が正しく行われている限り必ず一致する。

【選択肢】

1. アイ 2. イウ 3. アエ 4. イエ 5. ウエ

問題 3 次の【資料】に基づいて、当期のA株式会社の損益計算書における当期純利益として正しい金額の番号を1つ選びなさい。なお、資料から判明する事項以外は考慮しないものとする。

【資料】

1. 当期中の収入の内訳は、次のとおりである。

受取手数料によるもの	150,000 千円
機械装置の売却によるもの	3,800 千円
(機械装置の帳簿価額は5,000 千円である)	

銀行借入によるもの	20,000 千円
-----------	-----------

2. 当期中の支出の内訳は、次のとおりである。

給料の支払いによるもの	75,000 千円
諸経費の支払いによるもの	27,000 千円
備品の購入によるもの	3,000 千円
借入金の返済によるもの	25,000 千円
利息の支払いによるもの	900 千円

3. その他の取引は、次のとおりである。

- (1) 減価償却費 3,500 千円を計上する。
- (2) 借入金の利息について、未だ支払っていないものの当期に帰属する金額が 200 千円ある。

【選択肢】

1. 42,200 千円 2. 42,600 千円 3. 42,900 千円 4. 44,600 千円 5. 45,000 千円

問題 4～7

次の企業会計上の決算整理前残高試算表と期末修正事項に基づき決算整理後残高試算表を作成した場合について、以下の設問（問題4～7）に答えなさい。（決算は年1回、3月31日）

決算整理前残高試算表

××年3月31日

（単位：千円）

借	方	勘定科目	貸	方
155,000		現金		
	1,200	消耗品		
122,000		売掛金		
80,000		土地		
56,000		備品		
		貸倒引当金		3,300
		減価償却累計額		22,400
		資本金		50,000
		繰越利益剰余金		20,800
		売上		809,000
		受取地代		4,500
485,000		給料		
10,800		保険料		
910,000				910,000

期末修正事項

- (1) 決算整理前残高試算表における売掛金のうち、前期から繰り越された2,000千円が期末現在貸倒れとなっていることが判明しているため、適正に処理する。
- (2) 決算整理後残高試算表における売掛金に貸倒実績率3%で貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (3) 決算にあたり消耗品残高を確認したところ、300千円は期末現在未使用として残存している。
- (4) 備品について残存価額ゼロ、耐用年数を5年とし、定額法によって減価償却を行う。
- (5) 受取地代のうち、600千円は翌期帰属分のため、繰り延べる。

決算整理後残高試算表

××年 3月 31日

(単位：千円)

借	方	勘 定 科 目	貸	方
		現 金		
		消 耗 品		
		売 掛 金		
		土 地		
		備 品		
		前 受 地 代		
		貸 倒 引 当 金		
		減 価 償 却 累 計 額		(ア)
		資 本 金		
		繰 越 利 益 剰 余 金		
		売 上		
		受 取 地 代		(イ)
		給 料		
		保 険 料		
(ウ)		消 耗 品 費		
		減 価 償 却 費		
(エ)		貸 倒 引 当 金 繰 入		

問題 4 (ア) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 11,200 2. 16,800 3. 22,400 4. 28,000 5. 33,600

問題 5 (イ) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 600 2. 3,900 3. 4,200 4. 4,500 5. 5,100

問題 6 (ウ) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 300 2. 900 3. 1,200 4. 1,500 5. 1,800

問題 7 (エ) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 300 2. 2,300 3. 2,360 4. 3,600 5. 3,660

問題 8 地方公会計における財務書類に関する次のア～オの記述のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 固定資産は、土地や建物など長期にわたって使用される資産の総称であり、有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産に区分される。
- イ. 行政コスト計算書におけるその他の業務費用には、減価償却費や支払利息が計上される。
- ウ. 資産評価差額及び無償所管換等は、ともに純資産変動計算書に表示する。
- エ. 固定資産等形成分は、資産形成のために充当した資源の蓄積であり、原則として金銭の形態で保有される。
- オ. 歳計外現金は、資金収支計算書の資金の範囲には含まれない。

【選択肢】

1. アウエ 2. アウオ 3. アエオ 4. イエオ 5. ウエオ

問題 9 地方公会計における資金収支計算書に関する次のア～オの項目のうち、業務支出の区分に計上されるものとして、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 物件費等支出
- イ. 支払利息支出
- ウ. 補助金等支出
- エ. 災害復旧事業費支出
- オ. 地方債償還支出

【選択肢】

1. アイウ 2. アイエ 3. アイオ 4. アウエ 5. イウオ

問題 10 次のア～オの仕訳のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい（仕訳単位：円）。
なお、いずれの仕訳も地方公会計上のものである。

ア. A県は、地方債 30,000,000 円を発行した。

(借) 地方債発行収入 30,000,000 (貸) 地方債 30,000,000

イ. B市は、筆耕翻訳料として 1,500,000 円を支払った。

(借) その他(その他の業務費用) 1,500,000 (貸) 物件費等支出 1,500,000

ウ. C市は、D市への災害見舞金として 3,000,000 円を支払った。

(借) 補助金等 3,000,000 (貸) 補助金等支出 3,000,000

エ. E件は、預けている預金の利息 800,000 円を受け取った。

(借) その他の収入(業務収入) 800,000 (貸) その他(経常収益) 800,000

オ. F市は、イベントの協賛金として 2,500,000 円を支払った。

(借) 物件費 2,500,000 (貸) 物件費等支出 2,500,000

【選択肢】

1. アイウ 2. アイオ 3. アウオ 4. アエオ 5. ウエオ

問題 11 次のア～オの仕訳のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい（仕訳単位：円）。
 なお、いずれの仕訳も地方公会計上のものである。

ア. G市は、応接セット（1組）880,000円及びパソコン（1台）154,000円を購入した。

（借）	物品	880,000	（貸）	物件費等支出	880,000
	物件費	154,000		物件費等支出	154,000

イ. H県は、かつて発行していた地方債100,000,000円（1年内償還予定分）を償還し、その利息2,000,000円とともに支払った。

（借）	1年内償還予定地方債	100,000,000	（貸）	地方債償還支出	100,000,000
	支払利息	2,000,000		支払利息支出	2,000,000

ウ. I市では、退職する職員への退職金支給に備え、退職手当引当金30,000,000円を計上した。

（借）	退職手当引当金繰入額	30,000,000	（貸）	退職手当引当金	30,000,000
-----	------------	------------	-----	---------	------------

エ. J市は、建物に係る維持補修費として6,000,000円を支払ったが、当初は物件費として処理していたので、修正仕訳を行う。

（借）	維持補修費	6,000,000	（貸）	物件費等支出	6,000,000
-----	-------	-----------	-----	--------	-----------

オ. K市では、減価償却費として、建物につき3,000,000円、ソフトウェアにつき2,500,000円をそれぞれ計上した。

（借）	減価償却費	3,000,000	（貸）	建物減価償却累計額	3,000,000
	減価償却費	2,500,000		ソフトウェア	2,500,000

【選択肢】

1. アイウ 2. アイエ 3. アイオ 4. イウエ 5. イウオ

問題 12 地方公会計における次のア～ケの取引に基づいた場合、当月の純資産の変動額（純額）として正しい金額の番号を1つ選びなさい。

〔資料〕 当月の取引

- ア. 国から地方交付税 30,000,000 円を収受した。
- イ. 住民票等の交付に係る今月の手数料収入は 180,000 円であった。
- ウ. 未収計上していた住民税 1,200,000 円を回収した。
- エ. 住民から 1,000,000 円の寄付を受けた。
- オ. 満期を迎えた地方債 16,000,000 円を償還した。
- カ. 職員に当月分の給料 15,000,000 円を支払った。
- キ. 所有していた備品（帳簿価額 2,000,000 円）を 1,800,000 円で売却した。
- ク. 水道光熱費として 280,000 円を支払った。
- ケ. 退職した職員に退職金として 5,000,000 円を支払った（全額、退職手当引当金で充当）。

【選択肢】

- 1. 10,700,000 円
- 2. 11,900,000 円
- 3. 13,700,000 円
- 4. 15,700,000 円
- 5. 16,900,000 円

問題 13 下記の【資料】に基づいて、L市の当会計期間末における建物の帳簿価額として正しい金額の番号を1つ選びなさい。なお、当会計期間は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの1年間である。

【資料】 建物の減価償却に関する資料

取得日：平成9年10月1日（翌年度より減価償却を行うものとする）

取得価額：800,000,000円

減価償却方法：定額法

耐用年数：50年

償却率：0.020

【選択肢】

1. 384,000,000円
2. 400,000,000円
3. 416,000,000円
4. 440,000,000円
5. 454,400,000円

問題 14 以下のア～クの資産のうち、インフラ資産に該当するものとして適切な組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 河川
- イ. 港湾
- ウ. 保健所
- エ. 児童公園
- オ. 公共下水道
- カ. 公営住宅
- キ. 図書館
- ク. 橋梁

【選択肢】

1. アイエオ
2. アイオク
3. アイウエク
4. アイエオク
5. アイエオキク

問題 15 以下のア～クの資産のうち、減価償却を行わないものとして適切な組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 土地
- イ. 立木竹
- ウ. 植栽
- エ. 堤防
- オ. 橋梁
- カ. 美術品・骨董品
- キ. 建設仮勘定
- ク. 営業権

【選択肢】

- 1. アイキ
- 2. アカキ
- 3. アイカキ
- 4. アイウカキ
- 5. アイウカキク

問題 16 地方公会計におけるソフトウェアに関する以下のア～オの記述のうち、適切なものの組み合わせの番号を1つ選びなさい。

- ア. 映像ソフトのように、将来の費用削減とは無関係なソフトウェアは、資産計上しない。
- イ. ソフトウェアを購入した場合、購入に要した費用及び事業の用に供するために直接要した費用をソフトウェアに算入する。
- ウ. ソフトウェアを自団体で製作した場合、製作等に要した原材料費・労務費・経費及び事業の用に供するために直接要した費用をソフトウェアに算入する。なお、過去に遡って算出することが困難な場合は、5年間の開発費等の累計額を資産価額とする。
- エ. 物品等を稼働させるためのソフトウェアは、当該物品等と当該ソフトウェアが一体とならなければ機能しない場合は、原則として当該ソフトウェアに含めて計上する。
- オ. 研究開発費に該当する支出は、ソフトウェアに含めて資産計上する。

【選択肢】

- 1. アイウ
- 2. アイエ
- 3. アイオ
- 4. アウエ
- 5. イウオ

問題 17~18 次の〔資料〕に基づいてM市の当期の財務書類を作成した場合、以下の設問（問題 17~18）に答えなさい。なお、資料から判明しない事項については、考慮しなくてよい。

〔資料〕各財務書類の項目の金額

1. 歳入項目

税込等収入	4,456 百万円	国県等補助金収入	2,785 百万円
地方債発行収入	1,853 百万円	使用料及び手数料収入	38 百万円
資産売却収入	714 百万円		

（帳簿価額 706 百万円の土地を売却したものである）

2. 歳出項目

人件費支出	2,325 百万円	物件費等支出	3,099 百万円
補助金等支出	658 百万円	支払利息支出	463 百万円
社会保障給付支出	1,627 百万円	災害復旧事業費支出	552 百万円
地方債償還支出	1,121 百万円		

3. その他

前年度末純資産残高	28,789 百万円		
減価償却費	378 百万円		
資産評価差額等	108 百万円（評価増）		

問題 17 行政コスト計算書における純行政コストの金額として、正しいものの番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 8,678 百万円 2. 8,948 百万円 3. 9,026 百万円 4. 9,056 百万円 5. 9,072 百万円

問題 18 純資産変動計算書における本年度末純資産残高の金額として、正しいものの番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 26,866 百万円 2. 27,066 百万円 3. 27,082 百万円 4. 27,112 百万円 5. 27,814 百万円

問題 19～21

次の〔資料Ⅰ〕期中の取引に基づいて、〔資料Ⅱ〕合計残高試算表を作成した場合、以下の設問（問題 19～21）に答えなさい。

〔資料Ⅰ〕期中の取引（収入及び支出はすべて現金預金で取引されている）

- (1) 地方債 505 百万円を発行した。
- (2) 住民から住民税 664 百万円を収受した。
- (3) 体育館（建物）の建設費 746 百万円を支払った。
- (4) 庁舎の電気料金 92 百万円を支払った。
- (5) 公共施設の使用料 62 百万円を収受した。
- (6) 消耗品 43 百万円分を購入した（すべて費用計上すべきものである。）。
- (7) 職員の出張旅費として 46 百万円を支払った。
- (8) 地方債の利息として 21 百万円を支出した。
- (9) 県から体育館建設の補助金として 309 百万円を受取った。
- (10) 郵便代金として 36 百万円を支払った。
- (11) 職員に給料 180 百万円を支払った。
- (12) 減価償却費 100 百万円を計上した。

〔資料Ⅱ〕合計残高試算表

（単位：百万円）

勘定科目	本年度計上額		本年度末残高	
	借方	貸方	借方	貸方
貸借対照表				
建物				
減価償却累計額				
現金預金	(ア)			
地方債				
行政コスト計算書				
職員給与費				
物件費			(イ)	
減価償却費				
支払利息				
使用料及び手数料				
純資産変動計算書				
税収等				
国県等補助金				
合計				(ウ)

問題 19 (ア) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 1,376 百万円 2. 1,458 百万円 3. 1,478 百万円 4. 1,520 百万円 5. 1,540 百万円

問題 20 (イ) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 171 百万円 2. 192 百万円 3. 217 百万円 4. 227 百万円 5. 238 百万円

問題 21 (ウ) に記入する金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 1,540 百万円 2. 1,620 百万円 3. 1,640 百万円 4. 2,784 百万円 5. 2,804 百万円

問題 22～25

次の〔資料〕に基づいて、N市の当期の財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成した場合、以下の設問（問題 22～25）に答えなさい。なお、資料から判明しない事項については、考慮しなくてよい。

〔資料〕

1. 当期中の業務収入の内訳は、次のとおりである。

税収等収入 1,970 百万円

（うち、前期に未収計上したものの徴収額が 76 百万円ある。また、当期に賦課決定（調定）した税収等は 1,984 百万円であり、一旦未収金として処理している。）

使用料及び手数料収入 283 百万円

その他の収入（雑収入） 7 百万円

2. 当期中の業務収入以外の収入は、次のとおりである。

国県等補助金収入（投資活動） 207 百万円

資産売却収入 185 百万円

（保有する建物（取得価額 480 百万円、減価償却累計額 289 百万円）を売却した際の収入である。）

地方債発行収入 296 百万円

3. 当期中の業務支出の内容は、次のとおりである。

人件費支出 1,193 百万円

（うち、賞与等引当金の取崩しによる支払額が 196 百万円ある。）

物件費等支出 631 百万円

（うち、前年度に未払計上したものが 33 百万円ある。）

社会保障給付支出 180 百万円

支払利息支出 58 百万円

補助金等支出 44 百万円

4. 当期中の業務支出以外の支出は、次のとおりである。

公共施設等整備費支出 412 百万円

（建物の取得に係るものである。）

災害復旧事業費支出 122 百万円

地方債償還支出 300 百万円（元本部分）

5. 当期中の歳入・歳出取引以外の取引は、次のとおりである。

(1) 建物につき減価償却費を 37 百万円計上する。

(2) 賞与等引当金 198 百万円を計上する。

6. 前年度末の貸借対照表は、次のとおりである。

貸借対照表

(単位：百万円)

固定資産		固定負債	
土地	2,045	地方債	1,748
建物	2,248	流動負債	
減価償却累計額	△681	1年内償還予定地方債	300
		未払金	33
流動資産		賞与等引当金	196
現金預金	284	純資産	1,695
未収金	76		

問題 22 貸借対照表における現金預金の金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 276 百万円 2. 292 百万円 3. 302 百万円 4. 306 百万円 5. 316 百万円

問題 23 貸借対照表における純資産の金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 1,922 百万円 2. 1,936 百万円 3. 1,946 百万円 4. 1,948 百万円 5. 1,956 百万円

問題 24 行政コスト計算書における純行政コストの金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 1,918 百万円 2. 1,930 百万円 3. 1,938 百万円 4. 1,940 百万円 5. 1,950 百万円

問題 25 資金収支計算書における業務活動収支の金額として、正しい金額の番号を1つ選びなさい。

【選択肢】

1. 32 百万円 2. 46 百万円 3. 90 百万円 4. 154 百万円 5. 212 百万円